

## 令和5年度中山間ふるさと保全委員会開催結果

### 1 開催日時

令和6年3月21日（木）13時30分～15時30分

### 2 場所

府庁3号館第7会議室

### 3 出席委員

星野委員長、中村委員、伊藤委員

### 4 議題

- (1) 令和5年度活動報告（基金活動、参加型住民づくり事業）
- (2) 令和6年度活動計画について
- (3) 基金の保有状況について

### 5 概要（結果及び主な意見）

#### (1) 令和5年度活動報告について

<質疑応答及び意見>

##### 【ふるさと発見隊】

- ・丹後広域振興局のふるさと発見隊について、田んぼの学校は実際水田で耕作しているのか。また、生き物識別図鑑はどのような図鑑か。  
→田んぼの学校では生き物調査を実施している。図鑑は魚編やカエル編、昆虫編などで種を紹介している。  
→田んぼ固有の種について学習できるよう、工夫してほしい。

##### 【教育実践パートナーシップ】

- ・公的な協定の締結により、学校と継続的な連携がとれるのでは。
- ・南丹広域振興局の新たな企業と連携した取組は高校生の仕事への理解が深まり評価できる。各業種の協会を窓口とすることで、一層取組が進むのでは。

##### 【参加型住民づくり事業】

- ・地域と地域外住民とのマッチング支援はしているか。  
→地域外住民を単なる都市農村交流にとどまらず、関係人口の創出や継続的な活動参画など、一步踏み込んだ関係づくりを目指している。マッチングまでは実施していない。既に都市農村交流を行っていたり、今後希望する地域が

主に本事業に取り組んでいる。

- ・ 大学連携について、地域との窓口は教授か、学生が自主的に取り組んでいるのか。  
→教授（研究室）が窓口。
- ・ それぞれの地域は取組前に大学との交流があったのか。  
→教授の個人的なつながりから発展し、本事業をきっかけに地域として交流が始まった事例のほか、府の他事業や市役所と大学の連携が既に行われていた。  
→本事業は、外部住民受け入れのための体制やノウハウについて、経験値の少ない地域が学ぶ練習の機会となる。今後も本事業の継続を期待する。
- ・ 学生の交通費が補助金対象となり、現地で活動しやすくなった。大学へ本事業をPRし取組を推進してほしい。

#### 【その他】

- ・ 広報の成果として、マスコミの報道や記事などを紹介してほしい。
- ・ 資料は、今年度の成果と課題を整理し来年度の取組を紹介することで、取組の効果や発展が分かりやすくなるのではないかと。

### （2）令和6年度活動計画について

#### ＜質疑応答及び意見＞

- ・ 農村地域再構築推進事業の今年度と来年度取組の詳細について。  
→本事業は地域共同活動の省力化を図るため、活動の棚卸し・再編・合理化と近隣集落との連携に向けた話し合いをコーディネートするもので、今年度は地域へ事業紹介や打診を行ったものの実施地区はなかった。来年度は4地区実施の予定で予算確保している。
- ・ 多面的機能支払交付金の活動組織に働きかけることも可能。また、参加型住民づくり事業の大学連携については「食」にかかわる取組が多いことから、農政課食の安全・食育係と連携してはどうか。

### （3）基金の保有状況について

#### ＜質疑応答及び意見＞ なし

**【まとめ】**

- ・少額な予算の中、工夫した取組を行うことで、コストパフォーマンスの高い事業実施ができている
- ・コロナ禍からの回復も見られ、より一層、活動や交流の促進をお願いしたい
- ・ソフト事業は行政側の人手確保が不可欠。可能な範囲で人材確保に努めてほしい